

東文易解

前編

文部省國語調查會補助委員

大矢透 著

東京外國語學校教師

金國璞 同校

東京高等商業學校教師

張廷彦 同校

東文易解

前編

大日本東京

泰東同文局

明治三十五年七月二日印刷

明治三十五年七月五日發行

明治三十九年八月二十八日再版印刷

明治三十九年八月三十一日再版發行

〔東文易解前編與付〕

東京市麻布區飯倉狸穴町五十八番地

著作

大矢

透

著作
兼者

泰東同文局表代者

東京市日本橋區數寄屋町城邊河岸第二十二號地

藤山雷太

印刷者

東京市日本橋區兜町二番地

金澤求也

印刷所

東京市日本橋區兜町二番地
東京印刷株式會社

東文易解

凡例

一日東之與中華、固爲唇齒輔車之國矣、觀宇內之形勢、兩國宜相親相結、蓋莫急於今日也、而欲其相親相結、則莫先於意志之相通。意志之相通、則必藉語言爲之媒介。此吾所以有是書之著也。

一此書之成也、有如臨渴掘井見獸作矢、故無暇顧事之漏脫與冗沓、加之、作者淺陋、不嫻華文、敘述不能達其意者頗多。有如舉例、從座右所獲而用之、草率之間、取舍不得宜、不免駁糅蕪雜之毀者不少。欲待後日再刊之時、芟削補修、以有所贖也。讀者幸諒焉。

一古來、爲華人說讀東文之法者、蓋以此書爲首。故書中所用之品目稱謂、不典者居多。實出於不得已、讀者勿以杜撰見尤幸甚。

一本書、主讀法而非說文法者。故自文法視之、則有闕漏、有蛇足、識者
幸諒焉。

著者誌

東文易解前編

目次

第一 文解

第二 字母

第三 靜動不貫句

第四 靜繫靜不貫句

第五 施受動相貫句

第六 施受動不貫句

第七 一施兩受致動句

第八 靜以靜致動句

第九 靜同靜致動句

一 一 五 六 七 九 十 十三 十四

第十 靜因靜致動句

十六

第十一 靜由靜致動句

十七

第十二 靜受靜致動句

十八

第十三 靜使靜致動句

二十一

第十四 時異句

二十二

第十五 動致動句

二十三

第十六 代靜句

二十五

第十七 繫靜句

二十七

第十八 輔動句

二十七

第十九 斷定句

三十三

第二十 疑問句

四十七

第二十一

希望句

四十九

第二十二

感歎句

五十一

第二十三

兩文語辭比較圖說

東文易解前編

泰東同文局協修

文部省國語調查會補助委員大矢透著

東京外國語學校教師金國璞

同校

東京高等商業學校教師張廷彥

第一 文解

東文之與華文異者、有三。曰字母、曰語尾變化、曰辭句之次序、惟此三者、爲華人所難解也。然古時、東文多用華字華語、且構文之法、亦率皆類華之古文、故華人欲知東文者、先須畧通此三者、而後按古文字句次序、上下轉倒、以尋其意、猶東人讀華文之法、則東文亦不甚爲難解也。但此三者中、如識字母、固不甚費力、而語尾變化與辭句之次序、則稍屬複

難而非片時所能辨。故先宜平心靜氣、將字母習熟、而後逐本書編述之次第、徐徐進步可也。

第二 字母

日東之字母、其數四十有八、以發固有之音、而或加之符號、或數母結合、則天下之聲音、無不畢具。錯綜聯綴之、則千言萬語、皆在是矣。

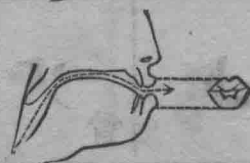
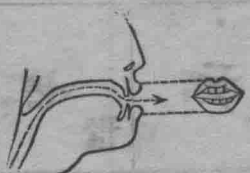
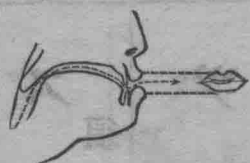
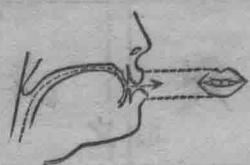
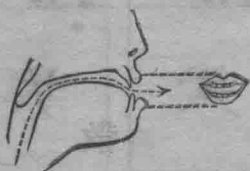
字母有真草二體、原皆取於華字。一者取真字偏旁、一者用極畧草字、而各假原字之首音、以定一音一聲也。

字母之排序、有二、曰以呂波歌、曰五十音、以呂波歌者、爲使兒童易於記誦、五十音者、或爲呼法之規矩、或爲語尾變化之準繩。併揭於此、欲學東文東語者、須先反覆記誦焉。

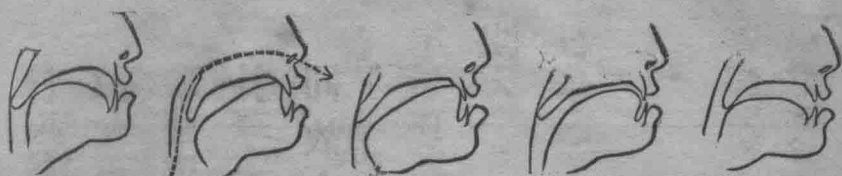
五十音圖

日東與中華、其聲音固不相同。故傳之、非面授口訣、究不能盡其妙。故今、畫各字母發音時之口形於圖上、與圖側、以標準之、故學者宜參驗圖中所記之呼法、而反覆呼之、當有所神會焉。日東之字母、原取原於華字、因其創造在千歲之上。故、當時所取之音、與今之音、迥然不同。故不足以示呼法。然、於字形之記臆不無小補、故註於各字母之下。

ア	行
ア	阿
イ	伊
ウ	宇
エ	江
オ	於



口舌如圖側
形而平直發
喉音短呼之



ハ行	ナ行	タ行	サ行	カ行
ハ 半	ナ 奈	タ 多	サ 散	カ 加
ヒ 比	ニ 仁	チ 知	シ 之	キ 幾
フ 不	ヌ 奴	ツ 川	ス 須	ク 久
ヘ 邊	ネ 禰	テ 天	セ 世	ケ 氣
ホ 保	ノ 乃	ト 止	ソ 曾	コ 己

共側於近舌先
 急圖氣接根如
 發變息與吊上
 音口與力鐘挺
 形如
 共側與鼻密接
 圖圖孔次上
 音音變次挺
 急發音
 圖變口形共
 道次與音側
 而固音鎖
 舌頭密上圖
 先如上圖挺
 發音
 圖口形共
 氣息與加力
 以頭近上
 舌根與吊鐘
 側圖變口與
 共急發音形
 相道接而固
 音圖變次與
 側圖變口形
 先如上圖挺
 舌根與吊鐘
 相道接而固
 音圖變次與
 側圖變口形



ア韻

ワ行

ワ

和

ラ行

ラ

良

ヤ行

ヤ

也

マ行

マ

末

イ韻

井

井

リ

利

イ

伊

ミ

三

ウ韻

ウ

宇

ル

流

ユ

勇

ム

牟

エ韻

エ

慧

レ

礼

エ

江

メ

女

オ韻

ヲ

乎

ロ

呂

ヨ

與

モ

毛

先如上圖微
開兩唇一如
發ウ音次與
形如側面變
形共發音口

先如上圖挺
舌尖微觸上
顎加聲次與
形如側面變
形共發音口

先如上圖挺
舌之前部近
接上顎次與
形如側面變
形共發音口

先如上圖合
兩唇開鼻孔
次與側面發
變口形共發
音

附號字母

ダ行	ザ行	ガ行
ダ	ザ	ガ
ヂ	ジ	ギ
ヅ	ズ	グ
デ	ゼ	ゲ
ド	ゾ	ゴ

〔音〕
〔長呼則各音皆爲ア〕

〔音〕
〔長呼則各音皆爲イ〕

〔音〕
〔長呼則各音皆爲ウ〕

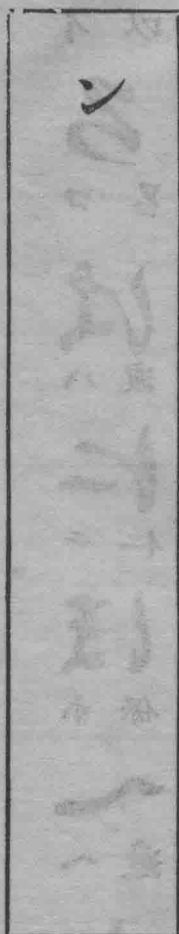
〔音〕
〔長呼則各音皆爲エ〕

〔音〕
〔長呼則各音皆爲オ〕

與振動喉內
聲帶共發カ
サタ各行音

東文之用字母也、或用眞體、或用草體、時或併用眞草兩體、其用法皆

以呂波歌圖



挺舌頭密接
上齦如發ナ
行音之時而
出音於鼻

鼻音字母

バ行	バ行
パ	バ
ピ	ビ
プ	ブ
ペ	ベ
ボ	ボ

先合兩唇固
鎖音道次與
振動喉內聲
帶共發ア行
音
先合兩唇固
鎖音道次急
發ア行音

相同。但輓近所著之書、多用草體、故學者宜與真體共熟記之也。
此圖呼法、右側註以真體、左側註以原字、學者參看以供記誦之便可
也。

い イ ろ ロ は ハ に ニ ほ ホ へ ヘ と ト
以 呂 波 仁 保 邊 止

ち チ り リ ぬ ヌ 五 ル を ヲ わ ワ か カ
知 利 奴 留 遠 和 加

よ ヨ た タ れ レ そ ソ つ ツ ね ネ な ナ
与 太 礼 曾 川 祢 奈

ら ラ む ム う ウ ゐ ヰ の ノ お オ と ト
良 武 字 爲 乃 於 久

や ヤ 也
ま マ 末
け ケ 計
ふ フ 不
こ コ 己
え エ 衣
て テ 天

あ ア 安
さ サ 左
き キ 幾
ゆ ユ 由
め メ 女
み ミ 美
し シ 之

ゑ エ 惠
ひ ヒ 比
も モ 毛
せ セ 世
す ス 寸

ん ン 无

第三 靜動不貫句

凡人與物之所作、有不藉他事他物、而獨自動者、謂之不貫句、即如圖中